

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	1710
		決裁期日	令和4年8月4日
名 称	令和4年度 第1回安平町未来創生委員会		
日 時	令和4年7月15日（金） 午前・ 午後 3時00分～5時15分		
場 所	総合庁舎大会議室		
出席者	委員・外部有識者 12名 安 平 町 及川町長（政策推進課）渡邊課長、山口参事、木村課長補佐、高橋主幹、笹山主査、吉田主事		
会議概要	<p><u>1 開会（進行：政策推進課長）</u> ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p><u>2 委嘱状交付</u> ◇委嘱者の変更：1名 ～省 略～</p> <p><u>3 委員長挨拶</u> ◇4月に町長選挙があり、及川町長が2期目に入ったところであること。 ◇総合計画後期基本計画の策定諮問が予定されていることから、計画の進捗管理において委員の皆さんにご協力をいただくこと。</p> <p><u>4 町長挨拶</u> ◇直近のまちづくりに関する話題提供 ◇総合計画が10か年計画として進行しており、今年度後期基本計画の策定を進めていくところである。委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p><u>5 議事</u></p> <p>（1）第2次安平町総合計画後期基本計画の策定に係る諮問について【資料1】 （説明：政策推進課）</p> <p>◇町長から委員会に対し諮問書を提出 ◇内容説明については、（2）にて実施</p> <p>（2）第2次安平町総合計画後期基本計画の策定方針について【資料2】 （説明：政策推進課）</p> <p>◇総合計画は町の最上位計画として位置付けられ、今回は、令和5年度から令和8年度の4か年間分となる後期基本計画の策定について、ご意見をいただくもの。 ◇安平町復興まちづくり計画の位置付けについては、後期基本計画の中に盛り込みながら策定をすること。 ◇資料に記載のある策定のポイントに基づき策定を進めていくこと。 ◇町民参画としては大きく3つの町民参画機会を設けながら策定を進めていく。 （及川町長） ◇SDGsや地球温暖化など国際的な動きの中で、町としてもエネルギーなどを自足できるようなまちづくり・仕組みや取組みも重要であり、また、経済面では地域通貨の発行が重要となってくると認識している。エネルギー・経済・人など含めた循環型社会がポイントになってくること。</p>		

◇また、CFCIの実践自治体として、病児・病後児保育体制の充実など子ども・子育て世代にやさしいまちづくりに繋がっていけばと考えている。

◇そういった点も踏まえていただきながら、ご審議をお願いしたい。

→**質問・意見なし**

※町長、用務により退席

(3) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業について【資料3】

(説明：政策推進課)

◇令和3年度は23本の事業を実施しており、事業評価としては、全体を通して「非常に有効」と評価している。

◇令和4年度は3ページ目以降掲載のとおり。

◇質疑応答要旨

<委員>

コロナ交付金の使途は自治体に委ねられており、一般的な使い道として、給食費や水道料金、福祉灯油などの物価高騰に係る事業があるかと思うが検討されていないのか。

<政策推進課>

物価高騰への対応分として、この後コロナ臨時交付金に加算配分されるため、給食の材料高騰分の補填を行うなどといった全体事業の協議・検討を行っているところ。

(4) 第2次安平町総合計画中期基本計画及び安平町復興まちづくり計画の進捗状況について【資料4】

(説明：政策推進課 高橋主幹)

◇中期基本計画に設定するKPI(指標)は105本あり、令和3年度末時点では、約68%が改善傾向にあること。

◇復興まちづくり計画においては、24%が完了、76%が着手済みであること。

◇質疑応答要旨

<外部有識者>

中期基本計画の指標にある合計特殊出生率は、全国的に下降傾向にあるが、安平町は上昇しているがこういった要因があるか。

<政策推進課>

様々な要因があるため明確には言えないが、早来学園の建設やあびら教育プランの取組み、不妊治療などの支援策などの取組みによる影響は少なからずあると認識している。

<政策推進課>

後期基本計画を策定する関係で、中期基本計画の評価・検証については、次回の委員会の中でお示しさせていただく。

(5) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況及び地方創生推進交付金事業について

(説明：政策推進課)

◇令和3年度の総合戦略全体の進捗状況としては、「概ね順調に進んでいる」と評価しているところ。

◇13ページ以降に、地方創生推進交付金事業の令和3年度における評価・検証を実施している。

<委員>

「子どもにやさしいまちづくり」ということで、この先まちとして、学校給食のオーガニック化を行うような方向性はあるか。

<政策推進課>

オーガニックに限定ではないが、取り入れていくことは既にやっており、今後もやっていく考えにある。

<p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内には様々な栽培方法を行う方がいる中で、安平町が給食のオーガニック化を進めるとするのはハードルが高いと認識しているが、子どもにやさしいまちとして、全面的に掲げながら取り組んでいっていただきたい。 ・教育に関しては、遊育の仕組みなどを通じて若い方の興味関心が増しているが、具体的に出生率を上げていくという面では、助産師や助産院などお産に関する施設の整備、性教育などの仕組みについても積極的に行っていただきたい。 ・外国から山林を購入できてしまうという状況にあるが、町ではどのように対策をしているか。
<p><政策推進課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食のオーガニック化に関連する取り組みとして、令和4年度執行方針の中に有機農業産地づくり推進事業など環境にやさしい農業を推進する取り組みが出てきているところ。 ・お産に関する部分については、町内で出産できないということは課題と認識している。性教育に関しては、安平町では古くから先進的に助産師さんと連携しながら、中学校の授業としてかなりのコマ数を割いて実施しているため、継続的に実施していきたい。
<p><政策推進課></p> <p>山林の関係については、道内では特にニセコがそうした課題に向き合っているところ。水源の心配があり条例化の動きが出てきているという状況にある。国においても森林所有権という個人の所有権に関する大きな問題ということもあり、国会でも議論が始まっているところであり、安平町においても調査研究を通じて、対応できるような準備をしていきたいと考えている。</p>
<p><委員></p> <p>子育て教育の取り組み結果が一番表れている数値（KPI）はどのようなものがあるか。</p>
<p><政策推進課></p> <p>資料5の17ページ目に移住相談件数が設定されており、令和3年度実績としては、目標値を大きく超える114件（基準値52件＋増加分62件）があり、問合せが増えているという実感もある。</p>
<p><委員></p> <p>資料4の14ページに地域医療体制の確保という施策があり、その中で休日・夜間救急体制の確保は令和3年度0箇所という実績となっている。実際に午前4時に体調を崩されて苫小牧市の救急センターへ搬送されたが、そこは午前7時で閉まるということから、診療できなかったなどの事例があり、不安に感じる部分もある。</p> <p>休日夜間でも安心して診てもらえるような具体的な方策などを協議していただきたい。</p>
<p><政策推進課></p> <p>町としても休日・夜間医療体制の充実を図っていきたい考えにあるが、フルスペックでは持てない現状があり、関係機関との協議により今の体制となっているところ。今後、休日・夜間利用体制の多角的な検討は進めていくものと思われる。</p>
<p><政策推進課></p> <p>移住を進めるにあたり、現状この町に住んでいる方が安心して暮らせなければ移住者は呼び込めないと認識している。移住を検討する上でも、診療機関は重要な要素であることから、庁舎内でも共有していきたい。</p>
<p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道外から移住して2年が経過するが、本当に安平町に来てよかったと思うと同時に、安平町に愛着が湧いている。通常、一度転出してしまうと戻ろうというマインドにならないと思うが、愛着があると戻ろうというマインドが働くのだと思う。 ・人口減少を止めるには、様々な切り口があるかと思うが、人口減少がどの年齢層でなぜ起こるのかということから、具体的な施策を検討するのが良いかと思う。 ・安平町は空港から近いという利点はあるが、旅行者からしたら通過点でしかなく、

また公共交通機関で考えると早来地区からのアクセスは悪いという面もある。つまりは、人を呼び込むことも難しいという面も持ち合わせていると考えられる。

・安平町の良さは、自然環境の良さにあると思っており、その中でも特に気温であると感じている。本州であれば、朝から30度を超えることもしばしばあるが、安平町は過ごしやすいため魅力であると認識している。また、道内でも比較的雪も少ないことなどの生活のしやすさというのは定年を迎えた方を呼び込むのに適していると思う。

<政策推進課>

自分の夢に向かって大学進学や就職で町外に出ていくとなかなか戻ってこないが、その要因は町内に自分のやりたい仕事がないということであると認識している。ただし、時代の変化により、IT系の仕事などは場所を選ばないということや、地方へ進出する企業もあることから、現在取組みを進めるサテライトオフィス誘致事業はUターンの可能性を広げるものとして考えられる。

その他、地域活性化起業人で安平町に入ってきていただいていたまちづくり会社が安平町に拠点を置いているということをつきかけとして就職で戻ってくるという可能性もあるかと思う。また、移住と起業を連動させたあびら起業家カレッジの取組みを通じて、安平町に戻ってきて起業する方が出てくるのが理想である。

新千歳空港から近いという面や気温などについては、これまでなかなかアピールしていなかったもので、参考にさせていただきたい。

こども園では道内外の方などの体験入園を検討していると聞いている。その中の1割でも定住人口に繋がっていけばと考えているところ。

<政策推進課>

定年を迎えた方の呼び込みについて、どのようなイメージをお持ちか。

<委員>

定年まで働くことが責任であり、その後の環境を変えたいと考えている方は多いと思う。本州では出来ないことや活躍できる場を探している方にとって安平町は魅力だと感じる。

<委員>

仕事という面に関して、企業では人材が不足している状況にある。こうした状況をチャンスと捉え、町内には様々な仕事あるという情報を発信・紹介をしていただけると企業にとっても移住を検討されている方にとっても良いと思う。

<委員>

上水道の関係については水道普及率が令和3年度88.5%とあるが、飲料水として地下水を運用している方もいる。地下水は検査が必要であり、仮に飲用水として適さない場合、自身で飲料水を購入しなければならない状況にあるが、特に検査や購入に対する支援はないので、そうした制度構築などを検討していただきたい。

<委員>

資料4の12ページにある「町外に居住する町内企業従業員の移住・定住数」という指標について、目標値40人とあるが実績が伴っていないため、当てはあるのか。

<政策推進課>

本件は、計画策定時である令和元年に目標設定していたもの。具体的な施策として、町内の工業団地に務めている方で、一年以上お住まいの場合に支援金を支給するという制度を実施しているが、震災の影響により令和3年度から実施しているもの。令和4年度以降も引き続きPRをしながら進めたいと考えているが、現状、目標値の達成は難しいと思われる。

まずは、制度立ち上げの段階で、町内の工業団地に立地する企業を対象にしているところ。対象範囲をどこまで広げるのかについて、状況などを把握しているところ。

<委員>

町外から通う方が多い状況があって、民間賃貸共同住宅建設等支援事業を実施しているかと思うが、活用状況はいかがか。

<政策推進課>

令和3年度は実績がなかった。お話はいただいていたが、資材の高騰を要因として建設に至らなかった。資材高騰に対応できるような支援額を用意すれば建設できるのかなどについて調査を進めたいと考えている。

<委員>

先ほど話のあった中学校の性教育が先進的であるという点など含めて、そのような情報はなかなか親元に入っていない。小学校・中学校はホームページも持っていないので、どのような活動をしているかがわからないため、大半を過ごす学校生活の状況を発信することも必要と考える。

<委員>

社会情勢の変化により、再生エネルギーの活用やCO2の削減などのキーワードが出てきている。後期基本計画では、今までの課題を修正するというレベルではなく、時代に追いつくため斬新な計画づくりをお願いしたい。

災害についても、年々レベルアップしてきているところであり、ハザードマップを作るだけではなく、災害対策として遊水池などの検討も進めていってほしい。

SDGsに関しては、産廃処理場の問題があるかと思うが、町としては反対の立場である一方で、ごみを排出する立場でもある。そのため、リサイクルについてもしっかりと検討していく必要があると考える。

<政策推進課>

4年前にはこういった社会情勢になるとは思っておらず、何が起きるかわからないことから、様々な社会情勢に対応できるような計画づくりが重要と認識している。そういった議論を委員会の中で出来ればと考えている。

意見によっては、個別計画として位置付ける必要もあろうかと思うが、委員会の中で様々な意見をいただければと思う。

6 その他

◇次回は9月に開催を予定している。

◇案件は、中期基本計画の評価・検証、町民参画の実施状況などを予定している。

7 閉会

以上、終了。(17:15)